

18 テストステロン補充療法が継続困難となった LOH 症候群患者に対して 柴胡加竜骨牡蛎湯が効果的であった一例

順天堂大学 泌尿器科

白川 智也、井手 久満、堀江 重郎

【目的】当院泌尿器科メンズヘルス外来では、LOH症候群・男性更年期障害・勃起障害・排尿障害・男性不妊といった男性特有の疾患・病態に対して、専門的治療を行っている。近年、LOH症候群や男性更年期障害の認知度が高まる中で、専門外来を受診する男性患者は徐々に増えつつある。症例によって患者背景や症状が様々であり、あらゆる要素を鑑みて治療方針を決定する必要があることは言うまでもない。今回、副作用によりテストステロン補充療法が継続困難となったLOH症候群患者に対して、柴胡加竜骨牡蛎湯が効果的であった症例を経験したため、文献的考察を交えて報告する。

【症例】 初診時年齢55歳、173cm、79kg、BMI 26.4。既往歴は高血圧、うつ病。常用薬はアジルサルタンのみ。2020年2月に精神的不調を主訴に近医を受診され、テストステロン値が低値であったことからテストステロン補充療法が開始された。症状改善は乏しいものの、2週に1回の頻度でテストステロンエナント酸エステル250mgを投与され、経時的に多血傾向となっていた。2021年2月に呼吸困難を主訴に救急搬送され、精査で肺塞栓症の診断となった。かかりつけで処方されていたアリピプラゾールに血栓症の報告があることから同薬は中止となったが、肺塞栓症発症以降もテストステロンエナント酸エステルによる治療は継続されていた。精神的不調の改善が乏しく、専門外来を希望されたことから2021年11月に当科メンズヘルス外来へ紹介となった。

【経過】初診日も前医での注射後であり、総テストステロン値は11.3 ng/mlと高値を認めていた。テストステロンエナント酸エステルおよびアリピプラゾール両薬剤の副作用により肺塞栓症を発症したと考えられたため、当科ではテストステロンエナント酸エステルは投与しない方針とした。抑うつ症状および不眠症状に対して、柴胡加竜骨牡蛎湯による治療を開始し、内服開始1か月後の外来で症状改善がみられた。2022年8月の採血では、総テストステロン値5.79 ng/mlと正常範囲内で保たれていた。

【結語】今回、副作用によりテストステロン補充療法が継続困難となったLOH症候群患者に対して柴胡加竜骨牡蛎湯が効果的であった症例を経験した。男性更年期症状に対するテストステロン補充療法は効果や安全性は比較的高いものの、副作用の一つである多血症は注意すべき合併症である。本症例のように、副作用によりテストステロン補充療法の継続が困難となった場合は、症状に合わせて適切な治療選択を行うことが重要である。